

令和 2 年 3 月 11 日
深地層の研究施設計画検討委員会
委員長 西垣 誠

深地層の研究施設計画検討委員会からの報告について

令和 2 年 2 月 13 日に開催した「第 24 回深地層の研究施設計画検討委員会」における審議の結果として、以下の内容について報告する。

- 瑞浪、幌延それぞれの深地層の研究施設においては成果が蓄積されており、前回の委員会までに各委員より出された指摘にも適切に対応していることが確認できた。そのため、昨年度に実施した評価を変更する必要がないとの見解を得た。
- 幌延については 500m までの調査研究を実施すべきということ、また、国際協力拠点として活用すべきという指摘がなされた。
- 瑞浪の埋め戻し工事の内容については、それはそれとしてしっかり対応すべきであるとの意見が出された。一方、地層処分技術の研究開発においては、そもそも大規模深度の地下坑道の埋戻し自体が非常に重要な研究開発課題であること、および埋戻しの方法やその結果について時間をかけて技術的に問題ないことを追求し公に明らかにしていくことは技術者の態度として、すなわち技術者倫理の観点からも重要であることを関係者の全てが認識しておかなければならないとの見解が得られた。
- 今回の埋戻し作業自体については研究開発の目的はないが（モニタリングシステムの有効性確認を除く）、上記の観点から、少なくともその作業履歴を記録しておくこと、埋戻し品質をその都度確認する行為を実施すること、およびモニタリングデータをしっかりと収集することなどが重要であり、工事後もそれらが確認できる状態にしておくことが重要であることを確認した。

以上